



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
- 3. APIリスト
- 4. プログラミング
- 5. チュートリアル
- 6. エラーコード
- 7. サポート

変更年月日	変更内容
2013-10-11	初版
2014-04-01	第2版
2016-08-01	第3版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">■ エラーコードの記載を追加
2017-12-01	第4版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 「プログラミング」を変更
2018-12-01	第5版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 表記のゆれを訂正
2020-04-01	第6版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">■ Windows 7 / Windows Server 2008 の記述を削除
2020-08-01	第7版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 「はじめに」のトラブルシューティングに関する記載を削除■ 「サポート」の内容を変更
2020-12-01	第8版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 「動作概念」の記述を変更■ 「PDF変換サーバ環境」を「PDF変換サーバ (Windows) 環境」から変更
2021-08-01	第9版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」を更新

目次

- 本書の目的
- 対象読者
- 本書の構成

本書の目的

本書では、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用する場合の基本的な方法や注意点等について説明します。

対象読者

本書は、開発をスムーズに開始するための手引書となっています。

したがって、実際に IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用したアプリケーションを開発するプログラマの方が対象です。

- 以下のいずれかを理解していることが必須です。
 - JavaEE開発モデル（Java）
 - スクリプト開発モデル（サーバサイドJavaScript）

また、本書は、以下に列挙する技術に関する知識を有することを前提として構成されています。

これらの技術に関して不明な点がある場合、本ドキュメントの内容を正しく理解することが困難になることがありますので、予めご了承ください。

なお、前提知識となる技術に関しては、一般の専門書籍等を参照してください。

- Javaプログラミング言語
- Java Servlet および JSP
- オペレーティングシステム
- ネットワーク

本書の構成

- [API リスト](#)

利用できるAPIについて説明します。

- [プログラミング](#)

プログラム開発の際の注意点や、プログラムの方法などを説明します。

- [チュートリアル](#)

本製品のAPI を利用して実際にプログラムを作成する過程を学びます。

- [エラーコード](#)

エラー発生時に返されるエラーコードを説明します。

- [サポート](#)

製品サポートおよび技術情報の公開について説明します。

目次

- APIリストについて
- JavaEE開発モデル
- スクリプト開発モデル

APIリストについて

本製品には、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 専用のAPI リストが付属します。

API リストは、document/apilist.zip にあります。このファイルは、ZIP で圧縮されていますので、任意のZIP解凍ツールで解凍してください。

解凍するときには、ディレクトリ付きで解凍してください。

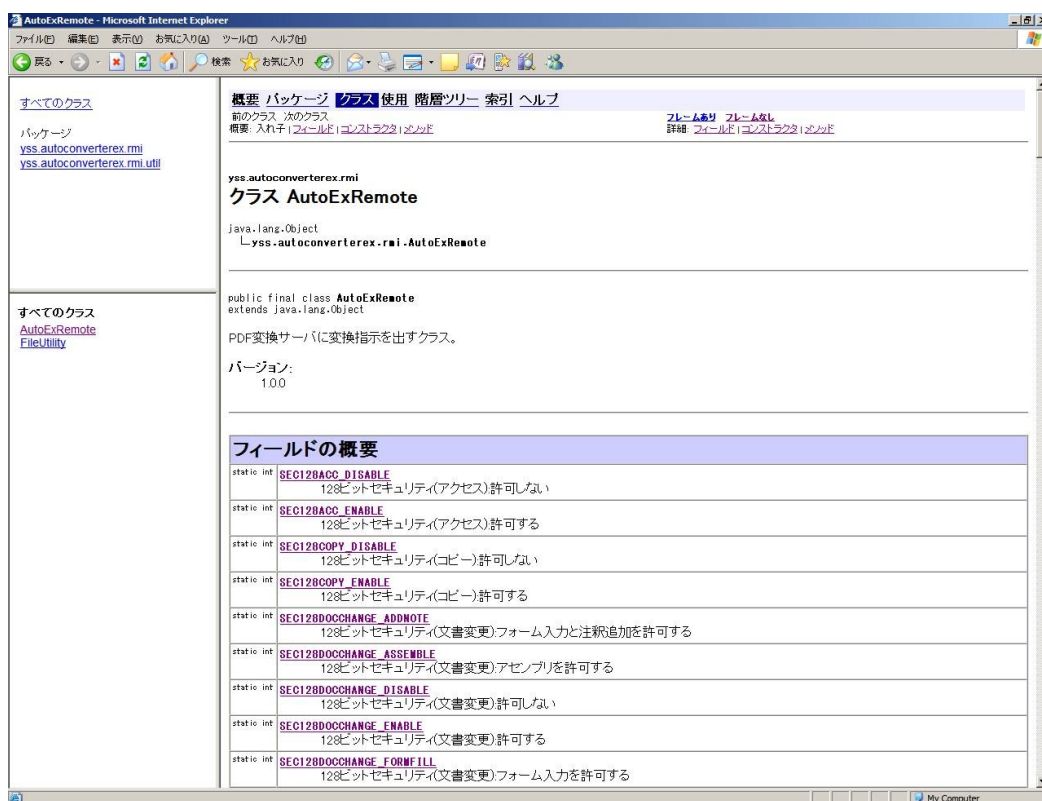
アーカイブファイルを解凍後 apilist/index.html をブラウザで開くと、API リストが閲覧できます。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform には、JavaEE開発モデル 用のAPI が用意されています。

スクリプト開発モデル で開発をする場合は、スクリプト開発モデル のソースコード内でJavaのクラスを呼び出してください。

JavaEE開発モデル

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、JavaEE開発モデル で利用可能なJava-API（クラス）を用意しています。



スクリプト開発モデル

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、JavaEE開発モデル で利用可能なJava-API（クラス）を用意しています。

そのため、スクリプト開発モデル で IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用する場合は、スクリプト開発モデル のソースコード内でJavaのクラスを呼んでください。

スクリプト開発モデル 内でのJavaのクラスの呼び出し方法については、intra-mart 付属のマニュアルを参照ください。

目次

- 動作概念
- タイムアウトについて
- APIの種類と性質
- プログラム開発における注意点
- 体験版ライセンスにおける注意点

動作概念

通常の JavaEE開発モデル スクリプト開発モデル プログラムは、ApplicationRuntime で実行されます。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform で提供されるAPI も、そのほとんどはApplicationRuntime で動作しますが、実際に PDFファイルを生成するのは PDF変換サーバです。

以下の方法でPDF変換を行うことができます。詳しくは、APIリストを参照してください。

No.	メソッド	説明
1	String convert (String inFilePath, String outFilePath)	変換対象ファイルのパスと変換後ファイルのパスを渡して、PDF 変換を行います。いずれのパスもApplicationRuntime側のパスを指定してください。



コラム

PDF ファイル作成の際にサーバ間でネットワーク通信が発生します。したがって、PDF生成処理のレスポンス時間はネットワーク環境に影響を受けます。

タイムアウトについて

PDF 変換サーバに依頼された変換処理は、順番待ち（キュー）の状態となります。

同時に大量のPDF 変換を行う場合は、PDF変換処理のタイムアウトやPDF 変換サーバへの過負荷が原因による接続タイムアウトに注意してください。

大量のPDF 変換（同時に200件以上）が想定される場合は、PDF 変換処理をキューで管理し順番に処理する等、上位アプリケーション側での対応をご検討ください。

AutoExRemote クラスは、以下3種類のタイムアウトを利用します。

詳しくは、APIリストを参照してください。

3種類のタイムアウト設定

- 一定時間経過してもPDF変換処理がはじまらない場合
- 一定時間経過してもPDF変換処理が終わらない場合
- 一定時間経過してもネットワークが返ってこない場合

No.	メソッド	説明
1	setBeforeTimeoutSec (int timeoutSec)	変換前のタイムアウト秒数を設定します。PDF 変換依頼を投げてから、PDF 変換処理を開始するまでのタイムアウト時間を設定します。タイムアウト時間を過ぎると、PDF 変換依頼は削除され次の変換処理に移ります。大量のPDF変換処理をおこなうシステムでは処理のキューが溜まりますので、このタイムアウト値は非常に重要です。通常は、0（タイムアウトしない）を指定してください。
2	setTimeoutSec (int timeoutSec)	変換後のタイムアウト秒数を設定します。PDF 変換処理が開始してからのタイムアウト時間を設定します。タイムアウト時間を過ぎると、変換処理は削除され次の変換処理に移ります。このタイムアウトは、必ず設定してください。
3	setTransTimeoutSec (int timeoutSec)	【必須】 SOAPの接続タイムアウト“ミリ”秒数を設定します。短すぎると結果が受け取れません。



コラム

PDF 変換処理のタイムアウトを変更した場合は、intara-mart のセッションタイムアウトについてもご確認ください。
PDF 変換処理が完了する前にintra-mart のセッションタイムアウトが発生した場合、変換結果を受け取ることができません。 intra-mart のセッションタイムアウトの設定については、intra-mart のドキュメントをご確認ください。

APIの種類と性質

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、JavaEE開発モデル で利用可能なJava-API（クラス）を用意しています。
そのため、スクリプト開発モデル で IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用する場合は、スクリプト開発モデル のソースコード内でJavaのクラスを呼んでください。
スクリプト開発モデル 内でのJavaのクラスの呼び出し方法については、intra-mart 付属のマニュアルを参照ください。

プログラム開発における注意点

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform が提供するAPIで変換元ファイルのパスを指定する際には、AppRuntimeからアクセス可能なパスを指定してください。
作成するPDFファイルのサイズによっては、ネットワーク、APIのレスポンス、PDFファイルがディスク上に完全に書き出されるタイミングが大きく異なる場合があります。
特にサイズの大きいPDFファイルを作成する場合は、十分な時間が経過した後に作成したPDF ファイルにアクセスするようにして下さい。

体験版ライセンスにおける注意点

試用版ライセンスをご利用のお客様は、30~60 日間の試用期間が終了するとPDF作成APIが自動的に利用できない状態となります。
この状態でPDF作成APIを利用したプログラムを実行した場合に、実行時エラーとなります。
その場合は、正規の製品ライセンスを購入いただき、アンインストール後に再インストールしてください。
アンインストール・再インストールの方法は、インストールマニュアルをご確認ください。

目次

- 前提条件
- 環境
 - サーバ環境
 - PDF変換サーバ 環境
 - 準備
- プログラムの作成
 - サンプルデータの用意
- JSPプログラムの作成
- プログラム実行
 - 準備
 - プログラム実行
 - 確認

前提条件

このチュートリアルでは、JavaEE開発モデル におけるプログラミングの方法について説明します。

このチュートリアルで利用するAPI は yss.autoconverterex.soap パッケージに含まれるクラスです。

このチュートリアルで作成したプログラムは、C:/temp/sample.doc ファイルをサンプルデータとして利用しますので、サンプルデータを作成してください。

このチュートリアルで作成したプログラムは、C:/temp ディレクトリにPDF ファイルを作成します。

環境

チュートリアルを学ぶための環境です。

このドキュメント内では、ここで示す環境を前提として解説しています。

サーバ環境

intra-mart Accel Platform と IM-PDFAutoConverter for Accel Platform が、正常にインストールされていることを前提とします。

PDF変換サーバ 環境

サーバには IM-PDFAutoConverter for Accel Platform が正しくインストールされ、APIが正常に動作している状態であることが前提です。

サーバは Windows Server 2012 で動作しているものとして説明をします。

また、Java は Oracle JDK がインストールされているものとします。

準備

このドキュメントではC:\temp をプログラム作成の作業領域として説明しています。

このフォルダが存在しない場合には、予め作成しておいてください。

別なフォルダで作業をする場合には、その環境に合わせてドキュメントを読みすすめてください。

プログラム作成には、テキストエディタが必要です。プログラム作成のできるテキストエディタをご用意ください。

プログラムの作成

サンプルデータの用意

C:\temp ディレクトリ内に sample.doc ファイルを作成します。
docファイルを作成するためには、ワードが必要となります。

JSPプログラムの作成

テキストエディタを起動して、以下のプログラムを記述します。

ここでは、作成したJSPファイルを実行します。

この時、ファイル名の大文字・小文字は厳密な意味を持ちますので、注意してください。

作成した JSPファイルは、以下のフォルダに保存してください。

ファイル名	保存場所
convert.jsp	%RESIN_HOME%/webapps/{アプリケーション名}/convert.jsp

```
<%@ page contentType="text/html; charset=UTF-8" pageEncoding="UTF-8" %>
<%@ page import="yss.autoconverterex.soap.*" %>
<%@ page import="yss.autoconverterex.soap.com.exception.AutoExException" %>
<%
String src = "C:/temp/sample.doc";
String pdf = "C:/temp/out.pdf";
String outpdf = "";

AutoExRemote ex ;
int sts ;
String docinfname ;
int timeoutsec ;

/* インスタンスを作成 */
ex = new AutoExRemote();

/*****
文書情報、セキュリティ、スタンプの設定
*****/
if( false ) {

if( false ) {
/* 設定済みの文書情報及びセキュリティ設定の名前 */
docinfname = "docinf-name";
}

if( docinfname == null ) {
/* 文書情報を設定 */
ex.setDocInf(
"タイトル",
"サブタイトル",
"作成者",
"アプリケーション",
"キーワード");
}
else {
/* 文書情報を名前指定して設定 */
ex.setDocInfByName(docinfname);
}

if( docinfname == null ) {
if( false ) {
/* 40ビットセキュリティの指定 */
ex.setSecurity40("open", "security",
true, true, true, true);
}
else {
/* 128ビットセキュリティの指定 */
```

```

ex.setSecurity128("open", "security",
AutoExRemote.SEC128PRINT_DISABLE,
AutoExRemote.SEC128ACC_DISABLE,
AutoExRemote.SEC128COPY_DISABLE,
AutoExRemote.SEC128DOCCHANGE_DISABLE);
}
}
else {
/* 文書情報を名前指定して設定 */
ex.setDocInfByName(docinfname);
}

if( docinfname != null ) {
/* 文書情報及びセキュリティを名前指定して設定 */
ex.setDocInfAndSecurity(docinfname);
}

if( false ) {
/* スタンプ(名前)の指定 */
ex.addStamp("stamp1");
}

/* Web用に最適化の有無 */
ex.setFastWebView(true);
}

/* プリンタ名の指定 */
ex.setPrinter("YSS PDF Converter XP");

/*****
変換前の別のタスクの処理に対するタイムアウト(秒)の設定
*****/
timeoutsec = 60 * 60;
timeoutsec = AutoExRemote.TIMEOUT_INFINITE;
ex.setBeforeTimeoutSec(timeoutsec);

/*****
変換時間に対するタイムアウト(秒)の設定
*****/
timeoutsec = 60 * 60;
timeoutsec = AutoExRemote.TIMEOUT_INFINITE;
ex.setTimeoutSec(timeoutsec);

/*****
ファイル送信から受信までのタイムアウト (ミリ秒) の設定
*****/
timeoutsec = 60 * 60 * 1000;
timeoutsec = AutoExRemote.TIMEOUT_INFINITE;
ex.setTransTimeoutSec(timeoutsec);

/* PDF変換 */
outpdf = ex.convert(src, pdf);

%>
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 3.2 //EN">
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>My sample for PDF</TITLE>
</HEAD>
<BODY bgcolor="WhiteSmoke">
<CENTER>
<H2>My sample for PDF</H2>
<TABLE border>
<TR>
<TH align="right" nowrap>
出力PDFファイル
</TH>
<TD align="left" nowrap>

```

```
<%= outpdf %>
</TD>
</TR>
</TABLE>
</CENTER>
</BODY>
</HTML>
```

プログラム実行

準備

実行させるための準備の手順を説明します。

サンプルファイルの用意

1. intra-mart サーバが稼働中の場合は停止状態にします。
2. 転送したクラスファイルをAppRuntime の動作するService-Platform をインストールしたディレクトリ内の doc/imart/WEB-INF/classes/myapp ディレクトリに保存してください。
3. intra-mart サーバを起動します。

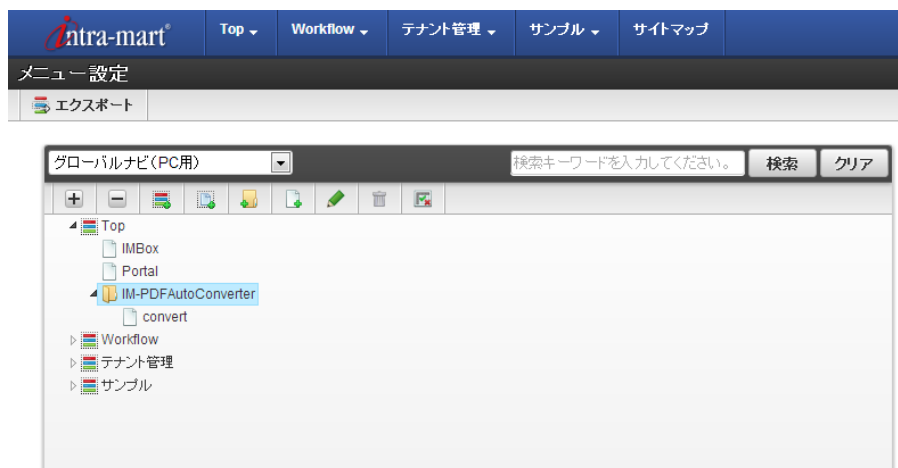
メニュー設定

1. テナント管理者でログインし、以下のメニューを設定します。
2. [テナント管理]-[メニュー]画面を開きます。
3. フォルダを作成します。

メニューフォルダの編集		
メニューフォルダID *	5i7j7cume8ghkn1	
メニューフォルダ名 *	日本語 *	IM-PDFAutoConverter
	英語	IM-PDFAutoConverter
	中国語	IM-PDFAutoConverter
アイコン画像	<input checked="" type="radio"/> ファイルパス	コンテキストパス配下のURLを入力してください。
	<input type="radio"/> CSS Sprites	imui://csssprites/ クラス名を入力してください。
更新		

4. URLに、convert.jsp を設定し、メニューを追加します。

5. メニュー設定は完了です。



プログラム実行

メニューで『convert』を選択して下さい。作成したJSPファイルが実行されます。

JSPの実行エラー（コンパイルエラー）になってしまった場合には、エラーメッセージの内容に従いJSPプログラムを修正してください。

JSPプログラムが正しく動作しているにも関わらず実行時エラーになってしまう場合は、エラーの内容にしたがって環境を正しく構築してください（環境を変更した場合は、サーバの再起動が必要になる場合があります）。

確認

プログラムが正しく実行されると IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の C:/temp ディレクトリに out.pdf というファイル名のPDF ファイルが作成されます。

このファイルがPDFビューア（Adobe AcrobatReader など）で正しく表示できればすべての処理が正しく行われたこととなります。

目次

- [PDFオートコンバータEX のエラーコード一覧](#)
- [通信関連のエラーコード一覧](#)

PDFオートコンバータEX のエラーコード一覧

PDFオートコンバータEX のエラーコード一覧については、[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)を参照してください。



注意

611 エラーが発生する場合は、[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)の「6.1 [611]エラー抑止(必須設定)」をご確認ください。

通信関連のエラーコード一覧

ステータスコード	エラー内容
-1	SOAPでの通信処理でエラーが発生した場合

弊社では、Web にて弊社製品に対するサポートおよび技術情報の公開を行っております。

当製品に関して不明な点などがございましたら、情報検索または弊社サポート窓口までご相談ください。